

令和4・5年度 神奈川県立学校 第三者評価実施報告書

評価実施校	吉田島高等学校	課題解決に向けた取組状況への評価・助言 ＜評価委員＞	課題解決に向けた取組の成果と課題 ＜実施校＞
カテゴリー名	専門学科高校		
課題 1	<p>専門学科の特色を生かした教育課程編成の検証及び取組の改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> 両学科の併置の特徴を生かす取組がこれまでどのように行われてきたのかも検証し、設置計画に基づく学校づくりを推進していく必要がある。 	<p>教育課程の編成では、これまでの検証をもとにそれぞれの学科・コースの専門性を生かすような教育課程の再編が進んでいる。この動きは家庭総合を導入する生活科学科のみならず教育課程の再編が農業三科にも本格的に広がってきている。それぞれの学科・コースの専門性を高める動きであるが、そもそもの学科・コースの学びを深化させ、目的を明確化する教育課程編成を選択したことは合理性を有し、高く評価することができる。その過程で、教員が参加する形でそれぞれの学科・コースのあり方を検討する動きがみられたことも高く評価できる。</p> <p>専門学科の特色を生かすための教育課程の改訂に向けて、着実に準備を進めている。教員が努力していることを生徒たちも感じ、それに応えようとしている生徒もいる。</p> <p>その上で、教育課程の再編実施後は、ミックスホームルームを廃止することを補うような学科・コース間の交流を促進させる工夫が必要となるので、取り組んでほしい。</p> <p>当校にマッチした授業方法として「教え考えさせる授業」(OKJ)の導入が図られ、研修会や研究授業が定期的に開催されている。数学を中心に展開しているが、他の教科にも広がりを見せつつある。このような具体的な取組を軸に効果的な学習指導方法の改善が進められていることを高く評価することができる。</p> <p>OKJによる授業改善を着実に拡げてきている。今後より多くの教科、教員がOKJの考え方に即した授業に挑戦していくことが望まれる。</p> <p>学校行事などで教科横断的で総合的な活動を進めている。科目間の連携についても検討してもらいたい。</p> <p>授業改善の取組を進めるなかで、教員の姿勢に影響されて、生徒が授業に取り組む際の意識が向上していることがうかがえる。良好な学びの場が形成されつつある。</p> <p>授業評価では、全体として8割以上達成したのみならず、各教科ごと、各学年ごとなどきめ細かい分析がなされた。その際、当校の課題を浮き彫りすべく学校独自のアンケート調査が行われたことを高く評価したい。</p>	<p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行の教育課程や1年次のクラス編成について各教科・各学科で検証し、それを踏まえて各教科・各学科から本校にふさわしい科目配置案が示され、専門学科の特色を生かした教育課程編成が具体化した。 4月から10月にかけて、毎月1回、日にちを設定して職員による勉強会を実施し、その中で他教科における課題を参加者全員で共有し解決策を検討したり、全校研修会では外部講師を招いて実施することで授業案作成段階から検討を進め、「教えて考えさせる授業」を、どのように行えばよいか、より明確にすることができた。授業での成果等は数字的にはまだ出ていないようであるが、少しずつ各教科に浸透しつつあるように思われる。 「生徒による授業評価」においても、各教科ともに8割以上の生徒が当てはまると答えている。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門学科として系統的発展的な学びのなかで生徒個々の学力の伸長を図ることのできる教育課程について議論を進め、各学科・コースの専門性を高めるとともに農業科と生活科学科の併置を活かした教育課程となるよう調整をしていく必要がある。 教科により「教えて考えさせる」授業に向けて温度差があり、計画的に研修会を位置づけることで、定期的に授業の状況や課題を共有し合える場を設定し、すべての教科で、「教えて考えさせる授業」の展開をおこなう時間を増やしていきたい。また、より多くの教員が参加することで、他教科での課題を自分の教科の課題としてとらえ、学校全体で授業の進め方や生徒の様子などの情報共有ができるようにしていきたい。
R5 指標	<p>1. 専門学科の特色を生かし、教科横断的な視点で個々の学びを深められる教育課程を編成できたか。</p> <p>2. 授業改善に向けた研修会を定期的に実施し、OKJやICTを活用した授業展開を進め、生徒による授業評価の「授業の中で身についたことやできるようになったことを実感することができた」の項目が8割以上達成できたか。</p>		
課題 2	<p>生活指導に係る取組の改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導内規の見直し、SNS利用時のトラブルなど、生活指導上の課題に対し生徒や保護者の理解を得られる指導方法を確立し、継続できる体制を整える。 	<p>生徒の現状を見据えて、より良い方向に向くように生徒指導を行うよう、教員も意識を変えてきている。</p> <p>規則の見直し・検証では、頭髪などの指導の基準を許容する方向性で、見直しとその基準を生徒に明確に示すことによって、生徒が納得してルールを遵守することに参加できるような状況が生じつつある。</p> <p>指導内規の見直しを図り、生徒が規則を守ろうとする意欲を引き出そうとしている。様々な規則について、教員と生徒達が共に考える機会を定期的に持つことを今後検討して欲しい。</p> <p>指導内規の改定については、更に保護者の意見を取り入れて行う予定である。</p> <p>ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)を取り入れた講習が行なわれ、アンケートの集計が進んでいる。</p> <p>また、生徒指導上の問題の背景には不本意進学があり、学校説明会などで当校での特質を理解したうえで、学ぶ意欲のある生徒を募集するための取組の充実が望まれる。</p> <p>生徒が安心して生活できる学校環境が整ってきている。また、特別指導案件も減少傾向にある。この傾向が継続するよう、引き続き指導を継続してもらいたい。</p> <p>これらのことが着実に実行されていることを高く評価したい。</p>	<p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 規則の見直しにより、生徒への指導回数を大幅に減らすことができた。生徒自身が選んで制服を着用すること、着こなし講座を実施したことにより、制服を着用する意義などを全生徒に認識してもらうことができた。この講座は今後も全生徒に年1回実施し、制服の着用の意義が定着するよう取り組みたい。 生徒指導の際は、再発防止のため、教員との対話に重点を置き、指導した。 SC、SSWに相談する機会が増やすことができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導内規・規則の見直しを、今後も実施し、生徒の実態に合わせたものに変える必要がある。 SC、SSWと学校との連携をよりスムーズにとれる体制づくりが必要である。 生徒へは、他者理解やソーシャルスキルが身につくような、講演会を企画していく必要がある。
R5 指標	<p>3. 生徒・保護者の意見を取り入れた指導内規、規則の見直しを図るとともに、SSTを取り入れた講演会を実施し、事後アンケートより生徒の他者理解に対する意識を育むことができたか。</p>		
		<p>総括評価(これまでの訪問①～⑤を踏まえた課題解決の取組状況に係る評価) ＜評価委員＞</p>	<p>総括評価を踏まえた次年度の学校運営に係る改善点および改善方法 ＜実施校＞</p>
		<p>令和4年度は、専門学科としての学校の特色を十分に理解していない生徒が一定数在籍していた。このため、教員は生徒指導に多くの時間と労力を割くこととなった。しかし、指導を継続することによって、徐々に落ち着いた学校生活を行う環境が整えられていった。</p> <p>入学定員を充足できないこともあり、基礎的な学力が不足する生徒もいる状況での学校運営は易しくない。そうしたなかで、両学科の専門性をそれぞれ生かせる学びを実現すること、具体的な授業改善の方法を模索すること、生徒が規律を遵守することに参加できるような状況を作り出すこと、これらが着実に実施されている。すぐに状況が変わるわけではないとしても、きちんと課題が認識され、その改善に向けて取組が進められていること、そして少しずつ学校が良い方向に向かっている状況があり、これらは高く評価されるべきものである。</p> <p>定員割れの状況においても、とにかく定員を充足させようという考え方でなく、学校説明会などを通じて専門高校の特質を理解したうえで専門科目を学ぶ意欲のある生徒を募集する動きがある。これも学びの場としての学校を活性化させる意味であり得る考え方と言える。</p> <p>令和5年度は、前年度の経験を活かし、生徒に寄り添う視点での生徒指導が行われるようになってきた。このため、教員は学習指導に力を入れることが可能となってきた。</p> <p>こうした学校の変化は、生徒たちも感じるようになってきている。</p> <p>専門学科としての特色を、中学生や地域の方々にも広く理解してもらい、学校の特色を活かした活動を行うための環境が整えられつつある。</p> <p>これまで準備してきた教育課程や学校運営のあり方の改善に向けて、着実に準備し、実施してってもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年入学定員を充足できない状況が続いており、専門学科高校でありながらその特色を理解していない生徒も存在している。そのような状況下において、いかに中学生やその保護者、中学校職員に本校の特色を理解してもらうかが引き続き課題としてあげられる。また、生活科学科においては、神奈川県内県立高校唯一の家庭科の専門学科でありながら、まだまだ県内の中学校へその存在を周知されていない現状にある。神奈川県全域から入学希望者を集めるにあたりその周知方法等の検討がさらに必要となってくると感じている。今後は、授業や行事等の本校の特色ある日々の取組をHPや中学生の視聴率の高いSNSによる発信を都度行い、引き続き広報活動に力を入れていきたい。 専門学科高校の使命として、専門的な知識・技術を持ったスペシャリストを育成することがあげられる。令和4年度には学科目標の見直しを図り、その目標に即した教育課程の編成について令和5年度は検討を進めてきた。その中で1年次から専門教科を多くし、より専門的な学びを深めるための教育課程が出来上がりつつある。今後は、各学科で学んだ知識を活かせるような進路指導や卒業後の進路実績についても検討を深める必要がある。 入学者選抜による全入が続いている中で、専門学科の学びに必要な基礎学力が不足する生徒に対し、今後も引き続き授業改善の在り方を検討していく必要がある。「教えて考えさせる授業(OKJ)」の取組を令和3年度より職員全体に周知し、研究会等を重ね実践が深まるよう努めてきたが全職員が一丸となって取り組むまでには至っていない。今後は、OKJの取組も含めて、学び直しに有効な授業改善の手立てについて更に研究を深めていきたい。 文化祭や体育祭等の学校行事について徐々に生徒主体の取組が行われている。行事においては、頭髪や服装等の身だしなみについても専門学科の生徒であることを踏まえ、生徒自らが考え発信する方向に向かっている。学校全体の生徒指導においても生徒へのアンケートをもとに指導内規の修正に努めている。今後はより一層生徒に寄り添った指導を深めていきたい。